

『アカウンティング演習B』試験問題例

【問題】次の問題に答えなさい。質問の答えとして適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

①次の文章はどの技法について記述したものか。

「管理会計では、どの原価差異についてさらに詳細な調査・分析をするのかを統計的に判定するのに利用する技法である。一定の管理限界線を設定し、管理外れがあった差異などを重点的に調査・分析する。」

ア パレート図 イ 管理図 ウ Zチャート エ 散布図

②売上高、固定費、変動費が次の額であるとき、損益分岐点はいくらか。単位は千円。

売上高	80,000 千円
固定費	21,000 千円
変動費	56,000 千円

ア 65,000 イ 70,000 ウ 72,000 エ 75,000

③商品販売業者の茅ヶ崎商会は20品目の商品を販売している。ABC分析によって重点商品に絞って販売促進を実施することになり、商品別に売上高を集計したところ、表のようになった。販売促進の対象となるAランクの商品数はいくつになるか。Aランクは70%を目安とする。単位は万円である。

商品A	商品B	商品C	商品D	商品E	商品F	商品G	その他
100	78	68	55	52	47	40	110

ア 3 イ 4 ウ 5 エ 6

④次の課題はどんなシミュレーション技法または統計技法と関係するか。

課題：目標利益を達成するための特定のインプット変数の数値を求める。

ア シナリオ分析 イ 回帰分析 ウ What-If分析 エ ゴールシーク分析

⑤直接労務費標準が標準作業時間2時間、1時間当たりの標準賃率2,200円であるとき、当月の生産量が850個、実際消費量が1,660時間、実際賃率が2,350円であったとき、労働能率差異ははいくらか。

ア 88,000円の有利差異 イ 94,000円の不利差異
ウ 88,000円の不利差異 エ 94,000円の有利差異

【解答】

① イ ② イ ③ ウ ④ エ ⑤ ア